

ダンゴウオ科魚類は団子のような丸い体と鰭(ひれ)が変形した吸盤状の腹部が特徴で、これまでに6属28種がいるとされてきました。兵庫県北部但馬沖の水深200~300mの海底には、コンペイトウ(イボダンゴ属)、コブフセンウオ(オキフセンウオ属)、ナメフセンウオ(オキフセンウオ属)の2属3種が生息することが知られていましたが(図1)、実はこれらの3種が同じ種だったのです。

深海性巻貝の空き殻の中に産みつけられた卵をふ化させて、稚魚を水槽内で長期飼育して形態形質の変化を観察したところ、雌はコンペイトウに、雄は成長の過程でコブフセンウオとナメフセンウオになりました。ダンゴウオ科魚類の分類では、これまで体表のコブの数や大

きさの違いが重要視されてきましたが、これらの形質が性別や成長段階によって異なることが初めて示されました。

この新発見につながるきっかけを与えてくれたのは、兵庫県美方郡新温泉町の沖合底曳網漁の漁師さんです。研究開始当初に漁師さんが「大きくて丸い(コンペイトウ)が雌で、貝殻に入って卵を守っている小さい(コブフセンウオ)が雄だと思っていた」と言われたことを研究者らが証明した形となりました。人の目が届かない深海域にはまだ知られていない生物や多くの謎が残されているはずですが、これからも地域の方々とともに兵庫県の近海で暮らす海洋生物について調べていきたいと思えます。

和田年史(自然・環境マネジメント研究部)

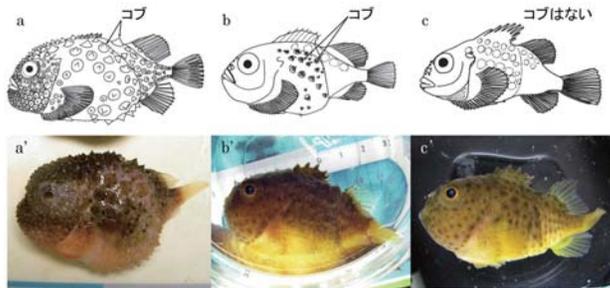


図1 ダンゴウオ科魚類3種のスケッチおよび写真(a, a': コンペイトウ; b, b': コブフセンウオ; c, c': ナメフセンウオ)

トピックス

新入館員 自己紹介



次長  
坂田 昌隆

今年4月、次長に着任しました坂田です。「ひとく通信」では、「人と自然の共生」をテーマに、館内での展示だけでなく、各種セミナーやキャラバン活動、研究・シンクタンク事業など、これまでの20年余の蓄積を生かした多彩な活動を展開しています。自然・環境分野におけるシンクタンクとしての機能を発揮しつつ、県民の皆様の生涯学習をきめ細かくサポートできるように、博物館の円滑な運営に努めてまいります。よろしくをお願いします。

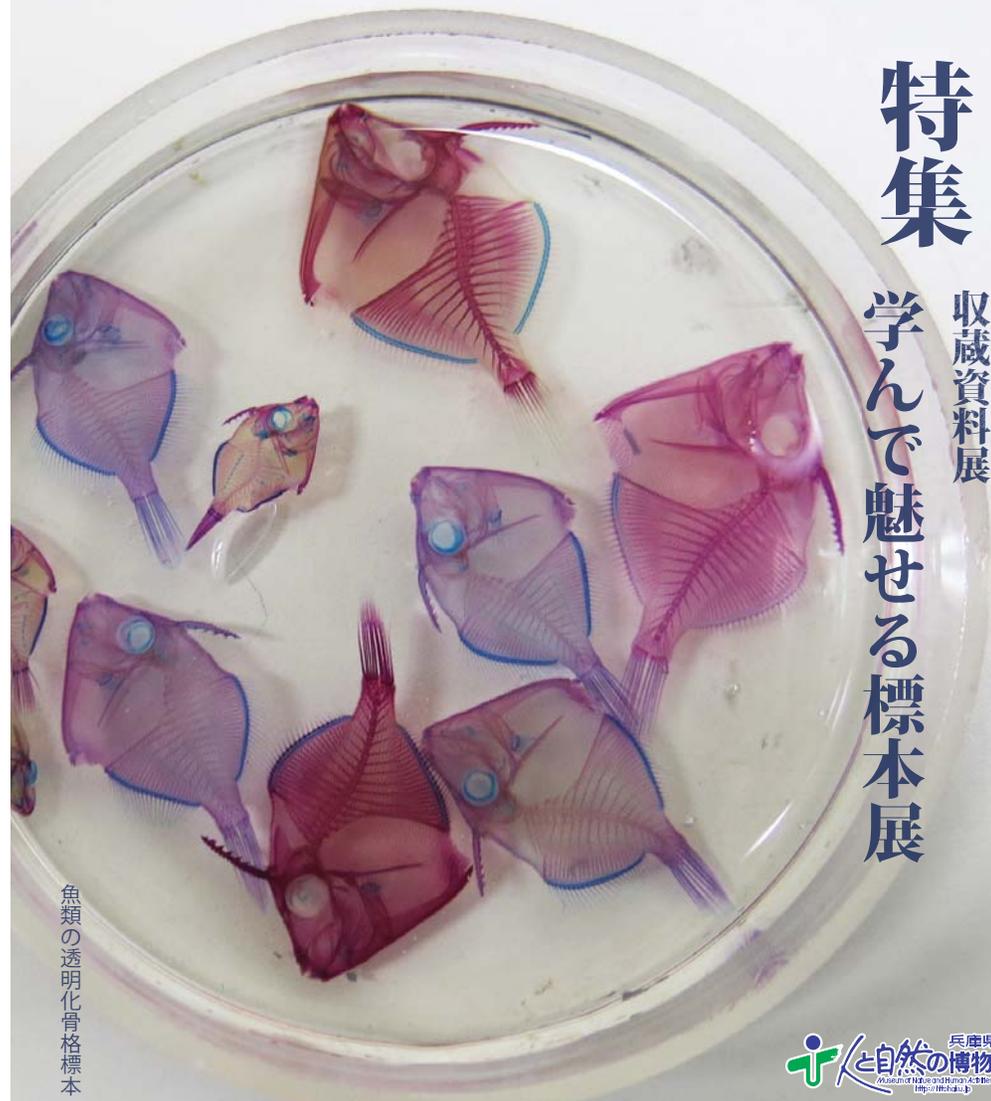


自然・環境マネジメント研究部長  
高橋 鉄美

アフリカのタンガニカ湖には、カウスズメ科魚類が200種以上生息し、そのほとんどが湖に固有です。私は、この多様な魚類の分類と生態を20年以上研究してきました。また最近では、南米のティティカカ湖に生息するオレスティアス属魚類の研究も始めました。日本を含む世界には面白い現象が沢山あり、興味が尽きません。皆さんにも、さまざまなことに興味を持って追究し、学ぶことの楽しさを体感してもらいたいと思います。

特集

収蔵資料展  
学んで魅せる標本展



魚類の透明化骨格標本